

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 1 月 19 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470501572		
法人名	社会福祉法人 本城福祉会		
事業所名	グループホーム セラピス		
所在地 (電話番号)	呉市柝原町字中倉150-2		(電話) 0823-30-5150
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成20年1月17日	評価確定日	平成20年3月3日

## 【情報提供票より】(平成20年 1月 4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 2 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 9.4 人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り 平屋建て	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	18,000(21,000) 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	300,000円	有りの場合 償却の有無	有 3年	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要( 1月 4 日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 90.1 歳	最低 82 歳	最高 98 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	サンクリニック、グレース歯科クリニック
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然の恵まれた環境にあり、敷地内には同一グループの特養老人ホーム、デイケアセンターのほか幼稚園、保育所がある。介護施設間では効果的な協力関係、幼稚園などとは相互訪問などの交流が行われている。「お互いに支えあいながら、自由に楽しく、わが家のように過ごす」を運営理念とし、あえて大自然の中に最小単位、1ユニットの「家庭的なホーム」づくりが目指されている。広く、ゆったりとした生活空間の中、9名の利用者は、一人ひとりの思いを大切に、それぞれにあったケアが心がけられている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は、チームケアのための会議開催、継続的な研修受講、緊急時の手当てなどであった。チームケアのため、職員の意見やアイデアは業務日誌や連絡ノートで収集されケア活動に活かされるようになった。また、職員の教育に関しては、グループ内教育の実施やOJTを重点実施するなど、改善のあとは見られるが、まだ充分とはいえない。さらに積極的な改善取り組みを期待したい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者を中心に検討されまとめられており、全職員を巻き込んだ動きにつながっているとは言えない。次回、自己評価実施に当たっては、できるだけ多くの職員を巻き込み、みんなの目で現状を見、検討した上でまとめられるよう期待したい。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>グループ全体としては、別の形で地域の人たちとの話し合いの機会を持たれているが、ホームとしての運営推進会議はまだ行われていない。早急に、構成メンバーを決め、2ヶ月に1度開催し、会議での意見やアイデアをサービス向上に活かせるよう、早期の体制づくりを期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族等の意見や苦情などは、ホーム直接でも、外部機関を通じても受付できるよう徹底されている。また、苦情があった場合は、その都度管理者、理事長に報告し、話し合いのしめしめしている。</p>
重点項目 ②	
重点項目 ③	
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>祭りなど自治会の行事参加、敬老会行事への参加や職員による手伝い、民生委員、ボランティア、敷地内の幼稚園、保育所の園児、近くの小学校の児童などとの交流も盛んに行われている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念、「お互いに支えあいながら、自由に楽しく、わが家のように過ごす」を基に、地域とともに暮らせるよう取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関など目の付きやすいところに掲示したり、日頃の話し合いなどを通じ徹底が図られている。日常のケア活動も一人ひとりの状況にあった介護が大切にされ、心がけられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りなど自治会の行事参加、敬老会行事などへの参加や職員による手伝い、民生委員、ボランティア、敷地内の幼稚園・保育所の園児、近隣の小学校児童などとの交流も盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や重要性は理解され、改善に向むけた取り組みはなされているが、まだ充分とはいえない。また、自己評価も管理者を中心に行われており、全職員を巻き込む動きにつながっていない。	○	ホーム全体として、更に積極的な改善取り組みを期待したい。また、自己評価実施にあたても、全職員を巻き込み、みんなの目で現状を見、検討を行った上でまとめられるよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループ全体としては、別の形で地域の人たちちの話し合いの機会ももたれているが、ホームとしての運営推進会議はまだ行われていない。	○	他ホームの例も参考に、早急に構成メンバーを決め、2ヶ月に1度開催するとともに、会議での意見をサービス向上に活かせるよう、早期の体制づくりを期待したい。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループ施設内に地域相談センターを受け入れていることもあって、地域包括センター相談員や民生委員などは頻繁に交流が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	できるだけ面会時に十分な情報提供ができるように心がけている。また、金銭管理は毎月定例、健康状況の変化についてはその都度電話連絡している。職員の異動については面会時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等の意見・苦情などは、ホーム直接でも外部機関をつうじて受け付けできるよう徹底されている。また、苦情等があった場合はその都度、管理者、理事長に報告、話し合いの上解決している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力離職のないよう配慮しておりこれまで殆ど影響はなかった。離職が出た場合も情報の共有化や引継ぎを密にすることで、利用者へのダメージを最小にするよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の基礎研修の他外部研修にはできるだけ参加するようにしているが充分ではなく、昨年はグループ内での研修を数回行った。また、日常ケア活動を通じてのOJTに力を入れている。		もう少し社外研修の機会を増やすなど、さらなる職員育成の充実を望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ同業者との交流は行っていない。グループ内他施設との交流を通じケア技術の向上につなげている。	○	同業他社との交流機会も持ち、勉強会や相互訪問を行うことで、サービスの質を向上させてゆく取り組みが期待される。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に馴染めるよう、ご家族や本人と話し合い工夫している。事前見学など行うケースもある、また入居後も利用者が不安にならぬよう、常に見守り、声かけを行い、無理なく馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を介護される一方の立場におかず、人生の先輩、生活の「知恵袋」として、尊敬の念を忘れない中で、お互いに支えあうよう努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族より、これまでの生活歴情報を聞くとともに、日常生活を通じ、本人の「これまで」、「思い」「希望」などの把握につとめている。その上で、その人らしく暮らせるよう支援している。		日常ケアを通じて得た生活歴情報や「思い」が本人データとして蓄積されるような仕組みづくりも検討されたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の一人ひとりが、その人らしく暮らせるためのケアのあり方について、本人ご家族、関係者で充分話し合い、それぞれのアイデアも出し合った上で作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しの他、毎日の生活の中で変化が生じた場合、関係者で話し合い、状況に即した新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じ、プライベートな外出、外泊、特別な受診のための送迎など、可能な限り柔軟に対応し、支援している。グループのディサービスに出かけることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関として、地元の病院や歯科医と提携している。常に提携医と連絡をとり適切な医療が得られるようにしている。また、日常的な医療相談は、グループ併設の特養老人ホームの看護師の支援を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、ホームとしての方針を決め、全職員で共有化されている。ただし、文書などでの固定化はおこなわず、ご家族の気持ちの変化などにも意を払いながら、その都度繰り返し話しあっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねぬよう、言葉使いは丁寧に「尊敬の保持」に心がけている。また、個人情報も一箇所厳重に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、できるだけ本人の希望や思いに合わせた日常生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、職員が食事を一緒にとり、介助の必要な人には、さりげない介助が行われている。また、食後は、一緒に片付けなども行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ本人の希望にあわせ、落ち着いて入浴してもらうよう支援している。平均的には週3回程度、高齢者が多く嫌がる人もいるが、いろいろ工夫しながら入浴してもらうよう努力している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かし、裁縫、折り紙、塗り絵など楽しみながら生活できるよう支援している。また、出来上がりは発表の場を設けたり、季節行事を行うなど、利用者が少しでもそれぞれの役割が持てるような場面づくりを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩、花見、紅葉など季節行事、併設サービスへの外出など、できるだけホームにこもらない生活になるよう支援している。		外出を嫌いがちな高齢者に外気に触れてもらうための外出や買い物のための外出など、さらに外出機会を増やす工夫が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間には必ず職員がいて、目配り気配りに心がけており、日中玄関は施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の本格的な訓練はまだ行われていない。	○	最低でも年一回以上、利用者を含む全員による避難訓練の実施を期待したい。また、災害発生時の地域支援体制、緊急連絡網の整備など、万一の場合、地域の人々の協力が得られる体制づくりも望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はグループの栄養士がつくりバランスがとられている。また、一人ひとりの状況に合わせ、刻み、ミキサー食などの調理もなされている。一日の食事量や水分量はおおよそ把握され記録されるとともに、食事量の少ない人には栄養剤補充も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、居間、浴室、洗濯室、面会コーナーなどいずれもゆったりと広い。程よい光のさしこむ天窓、開放的なウッドデッキテラスなど、自然でやわらかい雰囲気を出すよう工夫されている。調度品なども家庭的、季節の飾りや生花も飾られなど全体として、居心地良く過ごせる共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自分の部屋として、その人らしく過ごせるよう、馴染みの物、気に入った家具を持ち込み、好みの飾りつけを行いなど、それぞれ居心地良く過ごせるスペースとなっている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念の基づく運営</b>				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	これまでの生活の延長として過ごしていただけるよう、居室内は自由にアレンジしている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	その人の状況にあった介護と 理念を取り入れ日々実践をする		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	行事や地域の方々との交流の様子など理念を取り入れながら家族に報告している		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	施設の回りにはテラスがあり花を植え家庭的な雰囲気作りに努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会の行事 祭り小学生の慰問など 地元の人々と交流している		



	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	敬老会などの行事に参加。敬老会ではスタッフも参加し喜んでいただいている		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部からの視点で評価していただき利用者の方がその人らしく生活できるように改善している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を立ち上げていない	○	早急に運営推進委員会を立ち上げサービスの質の向上に向けて取り組む
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町担当者と交流する機会を設けていなかったが、地域包括支援センター・地域相談センターとの交流の機会あった	○	市町との行き来する機会を作り地域密着型のサービスの向上に取り組んでいく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者は知識を得ているが、職員までは周知していない。またこれまで必要な方はいない		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待について常に話をしている。虐待が見過ごされる事がない様注意し防止に努めている		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約等の歳は利用者家族に説明し不安疑問など話し合い理解納得を得ている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の意見・不満・苦情等は管理者から理事長へ報告し解決の場を設けている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態、日々の様子等家族に連絡している。金銭管理は毎月家族に報告している。職員の移動については面会の報告説明している		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見・不満・苦情等はその都度管理者、理事長に報告し話し合いの機会を設け解決している		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者・管理者間の連絡は常に取り合っている。日常生活の中での出来事は常に運営者に報告連絡している		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	できるだけ利用者・家族の要望に対応できるよう職員を配置・調整している		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者が動揺しないよう離職時には説明し、配慮している		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	業務を行いながらの外部への研修は難しく法人内で研修は行っている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現在のところ同業者との交流は行っていない。母体施設との交流の機会はある介護技術の向上に役立っている	○	他の施設と交流を行い双方の質の向上を図りたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者・職員は運営者と気軽に意見交換ができている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者に管理者は些細な事でも報告し職員が働きやすい状況に努めている		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	本人とゆっくり話すことで本人を理解し気持ちの共有に務めている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	運営者を含め家族等が困っている事希望等の話をする機会があり、時間の制限などは設けていない		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族にとって入居も含め一番良い方法を考えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が不安にならないよう常に見守り、声掛けを行い無理なく馴染めるよう配慮している		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごし ながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築 いている	日常生活のなかで『知恵袋』を聞く事が多々 あり実践している		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共 にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日常生活の状況を伝え喜び・悲しむ等の喜怒哀 楽を共有している		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が 築いていけるように支援している。	本人・家族のパイプ役として双方の話しを聞き 良い関係が続けられるようにしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途 切れないよう、支援に努めている。	本人から親戚・友人・知人への連絡は積極的に 支援している（電話・手紙等）		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同 士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う方々は気兼ねなく話しができる様テー ブル・椅子等の配置をしている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切に している。	契約が終了し自宅へ復帰された方はおらず、施 設入所されている。母体施設へ入所された場合 は面会時当事業所へ立ち寄ってくれている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴を家族より情報を得たり本人との会話の中から『思い』『希望』を聞き一人ひとりの意向を把握できる様に努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	相談の時点であらかじめの生活歴は情報として得ている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常生活の中で言動を見守り、支援する事で現在の状況能力を把握している。変化があった場合には職員で対応を検討している		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人家族と会話の中でその人らしく生活できるよう話し合いを行い介護計画を作成している	○	本人・家族・管理者・CM の意見等は取り入れているが現場の職員の意見・アイデア等を取り入れていきたい
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化が生じた場合現状にあった新たな計画を作成している		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の生活をその都度職員が記録し全職員が記録を読む事ができる。また計画の見直し、介護方法等の変更時には即対応できるようにしている		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じて必要な対応が出来るように配慮している		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員・ボランティア併設の幼稚園・保育園の園児、近隣の小学校の児童との交流を行っている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	母体施設のケアマネ・地域相談センターの職員との連携を図っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域相談センターと常に連絡はとっている。必要に応じて虐待・権利擁護について情報を得ている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	常にかかりつけ医と連絡をとりつつ適切な医療が得られるように配慮している		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医より必要に応じて精神科の医師へ相談され治療が受けられるよう体勢が取れている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体施設の看護師により日々の生活面・医療面において支援を受けている		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	これまで重度化したケースがなく急性期の疾病にたいして早急に対応し必要であれば入院している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	これまで重度や終末期にある利用者がいなかった		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	これまで重度や終末期にある利用者がいなかった		



	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	これまで特養や他のグループホームに移動されたケースはあったが、スムーズに移りすむ事ができている		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉使いは丁寧に『尊敬の保持』を心がけ個人のプライバシーに気をつけている		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の思いや希望など会話を通じて聞き出すようにしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースに合わせて日常生活を送れるよう職員は業務に当たっている		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自室・洗面台に鏡があり自分の化粧品等を置いて身だしなみに気をつけている。本人が希望する美容院がなく訪問の美容院を利用している		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に食卓を囲み食事をしている。食事後は一緒にテーブルを拭く等の片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の希望にあわせて準備している。要望によって食している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	『排泄・排尿状況調べ』を記入し個々の排泄パターンを知る事で排泄の失敗を減らせるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望にあわせ入浴している。落ち着いて入浴できるように支援している（遅くに入浴するのは嫌とのことで現在昼食後に入浴している）		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	気持ちよく休息・安眠できるよう寝具を清潔に保つ様心がけている。日中レクに参加を促し気分転換を図っている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	生活歴をいかし裁縫・折り紙・塗り絵等楽しみをもって生活できるよう支援している。出来上がりは発表の場を設けている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	小銭は所持している。買い物へ出かけた折には自分で支払いを行う		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	母体施設のデイサービスに出かけたり散歩に出かけたりしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	花見・紅葉等四季にあわせて外出し季節を感じる事ができる様に支援している		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話は使用できる。外線も取りつぎ、ゆっくり話ができる		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	家人・知人・友人等の訪問の際には居室、居間でお茶を飲みながらゆっくり過ごせるようにしている		
(4) 安心と安全を支える支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行った事がない		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居間など職員が見守りを行い目配り気配りに心がけ玄関には設鍵していない		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	施設全体が見渡せる間取りになっている。記録等記入し常に見守りを行っている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	錠・針等は本人、家族の了解のもと預かっている。必要時にしようできるようにしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々にあった介助をおこない一人ひとりの状態に応じて常に職員が話し合い自己防止に取り組んでいる		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	急変や事故の備えて母体施設の看護師に相談し、応急手当等の指導を受けている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災訓練は行っていない	○	早急に訓練を行い緊急時に備えたい。 (訓練は定期的に行う)

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居の際起こりうるリスクについては家族に説明し理解していただいている上で本人のその人らしい生活を支援している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックを行い日常生活の中で異変があれば即対応できるように母体施設の看護師に連絡している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入所者一人ひとりの服薬状況について、職員が理解している。また薬の説明書を保管しており常時確認できる状態にある		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	乳製品の摂取や水分補給などに注意している。また決まった時間に排便を促すようトイレに行く時間を作っている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後・眠前には口腔ケアの声掛けを行い実践している。自分で難しい方は職員と一緒にいる。口腔内に異常があった場合は訪問歯科医に相談している		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体調に配慮しながら食事量を把握している。食事量が少ない等あれば栄養剤の摂取も行っている。普通食の摂取が難しい方にはミキサー食に変更やトロメリンを使用している		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日手すり、椅子等は消毒している。利用者、職員は手洗いを施行している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手洗い、台所、その他清潔に努めている。包丁、まな板等は消毒している		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周り等には花など植え雰囲気づくりをしている。玄関前はスロープになっており車椅子でも出入りしやすい		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ブラインド等を利用しやわらかい雰囲気が出せるように工夫している。また季節の飾りや生花等を飾り、季節が楽しめるよう工夫している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	椅子の配置に気を配っている。その時の気分により自由に居場所を変えることが出来るようにしている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には馴染みの物、気に入った家具を使用している		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、居室の空気の入れ替えをしている。温度調整は職員で行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置、滑り止めマットの使用し安全に心がけている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自分で出来ることは職員は見守りを行い、自立に向けての支援を行っている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやバルコニーを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	天候に合わせてテラスでお茶の楽しんだりしている。本人の希望により建物の周囲を散歩している。時には園児を見に園舎まで行くこともある		

**V サービスの成果に関する項目**

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ② ③ ④	◎ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ② ③ ④	◎毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ② ③ ④	◎ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ② ③ ④	ほぼ全ての利用者が ◎利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ② ③ ④	ほぼ全ての利用者の ◎利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ② ③ ④	◎ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ② ③ ④	◎ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない



95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ◎ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② ◎数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② ◎少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ◎ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ◎ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ◎ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※           は、外部評価との共通項目